



年頭あいさつ

市議会は、市民の皆さまの先頭に立って、この難局に立ち向かいます

白河市議会議長 高橋光雄

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

市民の皆さまにおかれましては、新たなお気持ちで新年を迎えられたことと存じます。ぜひ皆さまと共に新しい光を生み出す年にしたいと念じています。申し上げるまでもない事ですが、昨年は3月11日の東日本大震災により市内でも15名の尊い命が失われ、地震、原子力発電所の事故による放射能汚染、さらには台風15号によって、住宅をはじめインフラ設備・公共施設など未曾有の損害を被りました。また、放射能による汚染は、健康や産業基盤に不安をもたらし、未知の経験と難儀な生活を強いております。

他方、私たちはこの大災難を経験して、家族や地域の繋がり、人と人との絆が私たちを生かす力を支えていることを新たに確認しました。従いまして、私たちはお互いに気づき合い励まし合い助け合う中にこそ、確かな人生が開け、その延長上に力強い郷土と祖国の復興および再生があると確信しています。生産要素として人・物・金があげられますが、最後は人です。市議会は皆さまの最も身近にいて、共に泣き・笑い・喜び合う存在です。私たちは市執行部と合い携え、市民の皆さまの先頭に立って、この難局に立ち向かいます。

幸い、市は、地元中小企業への支援や企業誘致など産業振興、新図書館の完成など中心市街地活性化基本計画の事業推進、教育施設等の改築を計画通り進めると共に、震災や台風の被害に対し矢継ぎ早に対策を講じ、放射能の低減化措置も順次講じてまいりました。また、昨年師走には本市を含む県南と会津地域が、原発事故による精神的損害賠償区域から除かれましたが、認めるわけにはまいりません。全県民が賠償の対象となるまで戦い続けます。結びに、市民の皆さまお一人お一人に幸多からんことをご祈念申し上げます。

年頭あいさつ

白河から「絆」と「再生」の光を

白河市長 鈴木和夫



謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

東日本大震災から10か月が過ぎようとしております。あらためて犠牲になられた方々とご遺族の皆さまに対し、心から哀悼の意を表し、また被災された皆さまに対しても、心からお見舞い申し上げます。

さて、これまで市は道路や水道などの公共施設の復旧に全力をあげるとともに、被災者支援や除染などの放射線対策にも様々な措置を講じ、市民の皆さまが安心して暮らすことのできる環境の整備に努めてまいりました。今後はこれらに加え、本市が未来に向かって持続的に発展するため、このほど策定した「白河市震災復興計画」を基本に、各種施策を展開してまいります。さらに、これまで市政の柱に据えてきた産業の振興、歴史まちづくり、医療・福祉サービスなどを強く推進するとともに、大震災での教訓を踏まえ、原子力に代わる自然エネルギーの導入や、災害に強いまちづくりなど、新たな視点も加え取り組んでまいりたいと考えております。

また、市の歴史・文化のシンボルである小峰城につきましては、国の史跡指定を受けていたことが幸いし、国・県の手厚い財政支援を受けられることとなりましたので、これらを有効に活用し、一日も早く堅牢な石垣を復元し、次世代に引き継いでまいります。

私は、被災現場に足を運ぶ中で、市民の皆さまが支え合い、協力しながら復旧に向けて汗を流す姿を拝見するたびに、白河の「絆」の力を強く感じました。真の意味で本市が復興するためには、市民・企業の皆さまなど、あらゆる方々の知恵と力を結集して、その歩みを進めていかなければなりません。復興に向けた「絆」と「再生」の光を、この白河から発信していこうではありませんか。